

1. 平成31年産稲作のポイント

- ・近年、生育期間の低温寡照や高温傾向など、極端な天候が見られます。再度基本技術を確認し、健全で気候変動に強い稲づくりを目指しましょう！

気象リスクから「稲の身を守る」栽培管理（**基本技術**の励行）

- ①健苗を作ること（直播の場合は苗立ちを良くすること）
→育苗中の**温度管理**や、直播時の播種深度等に留意しましょう
- ②苗の活着を良くすること（移植栽培）
→**極端な**深植え・浅植えや、**過剰な**一株あたりの植付け本数にしない（栽植密度によらず、一株6本以上の大苗にしない）
- ③ほ場の水持ちを良くすること（日減水深目安2~3cm）
→**除草剤等の効果**確保、水管理による莖数制御、幼穂の保護等が適切に実施できるほ場であること
- ④除草剤等の適切な選択と使用タイミングを守ること
→環境保全米の場合は、使用可能な薬剤に限られるため、特に**使用時期**を外さないよう特に留意しましょう
- ⑤土壌や水稻の生育に合わせた適切な施肥をすること
→継続的な土づくりと、**追肥の要否を判断することが重要**です

2. 施肥設計

- ・品種毎に目安となる基肥量や追肥のタイミングが異なります。

表1 施肥設計の目安

	基肥			追肥	
	窒素(kg/10a)	リン酸(kg/10a)	カリ(kg/10a)	幼穂形成期 窒素(kg/10a)	減数分裂期 窒素(kg/10a)
ひとめぼれ	5	8~10	8~10	1	1
だて正夢	5	8~10	8~10	—	2
ササニシキ	3~4	6~8	6~8	—	1~1.5
つや姫	5	8~10	8~10	2	—
多収米(ゆみあずさ)	8	11	8	2	0 or 2
多収米(ちほみのり)	6	10	10	2	2

※環境保全米の場合は、化学肥料窒素成分で 3.5kg/10a 以下となりますので、成分量を確認し、施用しましょう。

3. 播種準備

(1) 床土の準備

- 育苗培土はpHが適正範囲（pH4.5～5.5）のものを使用しましょう。
- 人工培土の場合は、pH および肥料分が調整されていますが、銘柄によっては肥料の含有量が異なるので十分確認してから使用しましょう。
- 育苗箱 1 箱あたりの施肥量は、覆土を含め、窒素・リン酸・カリの成分量で各 2g（中苗の場合は各 1.5g）を標準とします。

(2) 種籾の準備

①保管

- 温湯消毒をした種籾を保管する場合は、清浄で風通しのよい場所を選び、直接地面に置くことのないよう注意しましょう。

②比重選

- 比重選（塩水選）を行い、充実した種子を確保しましょう。
- 充実した種子は発芽力が強く、生育も良好で、種子伝染性病害の抑制も期待できます。

表2 比重選の目安

種類	比重	水10Lに対する必要量(kg)	
		食塩	硫安
うるち種	1.13	2.1	2.7
だて正夢 もち種 低アミロース米	1.08	1.2	1.5

③種子消毒

○ 温湯消毒＋生物農薬の【体系処理】

- 温湯消毒と生物農薬（タフブロック、エコホープ DJ 等）を体系処理することでばか苗病等に対する防除効果を高めることができます。

○ 化学農薬による消毒

- 化学農薬（テクリード C フロアブル、モミガード C 水和剤等）を使用します。
- 使用後の廃液は、川や湖沼に流出しないように注意しましょう。

* 農薬は使用基準をよく確認し、効果が得られるよう適切に処理しましょう。

④浸種（水漬け）

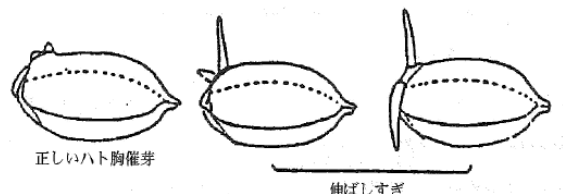
- 水温は 10～15℃でゆっくり浸種した方が催芽・出芽揃いが良くなります。
- 15℃以上では、ばか苗病が発生しやすくなります。
- 水換えは 2～3 日に 1 回行い籾袋を上下交換し、均一に吸水させましょう。

表3 浸種積算水温の目安

積算水温	100℃	110～120℃	120℃
品種	ササニシキ みやこがねもち	つや姫	ひとめぼれ だて正夢 まなむすめ げんきまる

⑤催芽

- 28～30℃で行います。ばか苗病発生抑制、苗立枯細菌病予防のため、30℃を超えないようにしましょう。
- 催芽はハト胸程度とし、伸ばしすぎに注意しましょう。



4. 播種～育苗管理

(1) 播種

- ・箱当たり播種量と播種期および田植期の目安は下表のとおりです。
- ・田植期が5月中旬以降となる場合は、育苗日数を短めにしましょう。

表4 苗の種類別播種量と育苗日数

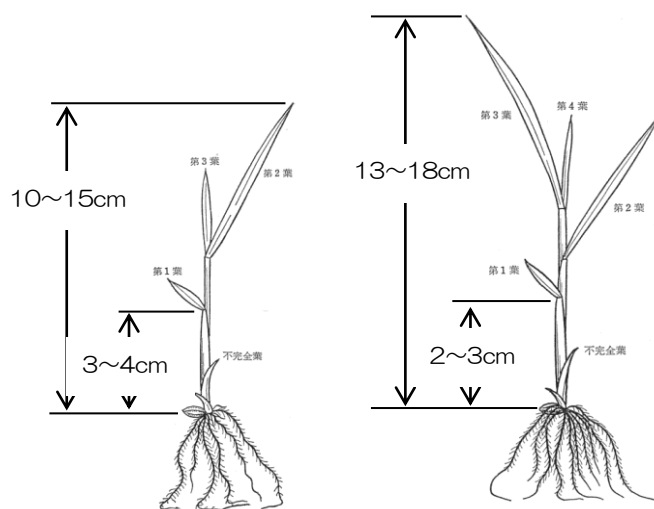
苗の種類	播種量 (g/箱)				播種期	育苗日数	田植期	
	ひとめぼれ		だて正夢					
	乾籾	催芽籾	乾籾	催芽籾				
稚苗	加温	160~180	200~250	145~160	180~225	4/20~25日頃	20~25日	5/15頃
	無加温	160	200	145	180	4/15~20日頃	25~30日	
中苗	無加温	100	125	90	110	4/10~15日頃	30~35日	

(2) 育苗管理

- ・温度管理と水管理に注意し、太くて丈夫な健苗を目指しましょう。

表5 苗の種類別目標値

項目	稚苗	中苗
葉齢(葉)	2.1~2.5	3.5~4.0
草丈(cm)	10~15	13~18
第1葉鞘高(cm)	3~4	2~3



田植え適期の稚苗

田植え適期の中苗

①育苗管理のポイント

	稚苗		中苗
	加温出芽	無加温出芽	無加温出芽
出芽	<ul style="list-style-type: none"> ・加温温度：28~30℃で48時間（ひとめぼれはこれよりやや長め） ・細菌病予防のため30℃は超えない ・芽長を覆土上1cm程度にする（徒長防止のため） 	<ul style="list-style-type: none"> ・半遮光性の保温シートまたはフィルム（シルバーポリトウ等）を箱全面にべた張りし、周囲はすき間が開かないように押さえる ・低温予想時は保温対策を実施する 	
緑化	<ul style="list-style-type: none"> ・目標温度：昼間25℃ 夜間10℃ ・5℃以下の低温予想時は、被覆資材等で保温対策を実施する ・適度な遮光性と通気性のある資材（ラプシート等）を2~3日べた掛けにする 		<ul style="list-style-type: none"> ・目標温度：昼間25℃ 夜間20℃ ・5℃以下の低温予想時は、被覆資材等で保温対策を実施する ・除覆後※は緑化まで終わっているので、通常の硬化を行う
			※第1葉が展開したら除覆する
硬化	<ul style="list-style-type: none"> ・目標温度：昼間20~25℃ 夜間10℃ ・除覆後は低温時以外は、昼夜ともハウスを開放する（徒長防止のため） ・5℃以下の低温予想時は、ハウスを閉め、被覆資材等で保温対策を実施する ・かん水は午前1回とする（水のやり過ぎは、徒長苗や病害発生につながる） 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・葉色が淡くなる頃（1.5葉期頃）に、窒素成分1g/箱を追肥する 		<ul style="list-style-type: none"> ・肥切れ症状が見られたら、窒素成分1g/箱を追肥する

②育苗期の病害対策

主な病害	病徴	発生要因	予防法
ばか苗病	<ul style="list-style-type: none"> 第1葉鞘,新葉が徒長し,淡緑色となる 根数が少ない 籾や苗の基部が暗褐色～暗紫色となる 	<ul style="list-style-type: none"> り病種子の使用 種子消毒の不徹底 育苗中の高温多湿 	<ul style="list-style-type: none"> 健全種子の使用 塩水選,種子消毒の実施 適正温度での育苗管理
もみ枯細菌病	<ul style="list-style-type: none"> 坪枯れ状に発生 新葉が葉鞘を破って途中からねじれながら出葉する 芯が腐敗し,容易に抜ける 	<ul style="list-style-type: none"> り病種子の使用 種子消毒の不徹底 催芽・出芽時の高温 育苗中の高温多湿 	<ul style="list-style-type: none"> 健全種子の使用 塩水選,種子消毒の実施 適正温度での催芽・出芽 適正温度での育苗管理
苗立枯細菌病	<ul style="list-style-type: none"> もみ枯れ細菌病に似ているが,芯は腐敗せず,抜けない 		
苗立枯病	フザリウム属菌 (白～淡紅色カビ)	<ul style="list-style-type: none"> 地際及び根が褐変 地際及びもみに白～淡紅色のカビ 	<ul style="list-style-type: none"> 適正 pHの床土の使用 適正温度での出芽,育苗 適切なかん水 (過乾燥・過湿の防止)
	ピシウム属菌 (カビは見られない)	<ul style="list-style-type: none"> 水浸状になり,急激に萎凋,坪枯れが発生 地際にカビは見られない 	
	リゾプス属菌 (白カビ)	<ul style="list-style-type: none"> 緑化開始時に箱全体が白いカビで覆われる 棒状・球状の異常根が見られる場合がある 	
	トリコデルマ属菌 (青緑色カビ)	<ul style="list-style-type: none"> 葉の黄化が激しい 地際及びもみに青緑色のカビ 	

5. 本田管理

(1) 移植時の注意と水管理

- 作業はできるだけ風のない温暖な日を選び, 活着を良くするようにしましょう。
- 植付本数は, 稚苗で 4～5 本/株, 中苗で 3～4 本/株とし, 植付深は 3cm とします。
- 田植直後は根からの吸水が少なく, 葉茎からの蒸散が多くなります。活着するまでは葉身が 2～3cm 出る程度の深水管理とし, 早期の活着を促しましょう。特に強風の日などは植傷みが生じ易いため注意が必要です。
- 活着後は水深 2～3cm の浅水管理 (低温や晩霜の恐れのある時は 5～6cm の深水) とし, 初期生育量の確保に努めましょう。

(2) 除草剤散布

- 除草剤は田面に『処理層』を作ることによって効果を発揮します。
- 代かきを丁寧に行って均平を確保し, 田面の露出を防ぎましょう。
- 施用時には水口, 水尻をしっかりと止め, 5cm 程度の水深を確保し, 7日間 水深を維持するようにしましょう。
- 雑草葉齢に合わせて処理適期に散布しましょう。同じ雑草が残るようになったほ場では, 同じ除草剤を連用せず, 初期除草剤との体系処理を行いましょう。
- 沿岸部の砂質水田で水持ちが悪かったり, 十分なかんがい水がこないほ場では 茎葉処理剤を活用して雑草防除を行いましょう。

『だて正夢』の栽培管理



だて正夢

- ◆「だて正夢」としての品質基準をクリアするためには、丁寧な栽培管理が必要です。栽培管理のポイントを再度確認し、高品質・良食味を目指しましょう！

1. 施肥設計

- 基肥：窒素 5 kg／リン酸 8～10 kg／カリ 8～10 kg（各 10a 当たり）
*窒素は速効性窒素とします。
- 追肥：減数分裂期に 窒素 2kg/10a

2. 播種準備

- 比重選：もちと同じ比重 1.08 で行います。
- 浸種 積算温度 120℃，催芽 28～30℃16 時間（「ひとめぼれ」並）

3. 播種～育苗管理（稚苗育苗が基本です）

- 播種時期：4 月 20 日～25 日に行う
*移植日の目安から逆算して播種日を決めましょう。
- 播種量：「ひとめぼれ」の 1 割減とします。
*千粒重が小さいため
（例：「ひとめぼれ」で乾籾 160g の場合，同じ粒数の「だて正夢」は 145g 程度となります）
- ※「だて正夢」は「ひとめぼれ」に比べ，苗の段階から草丈が長く，葉色もやや濃い傾向にあります。

4. 移植

- 移植時期：5 月 10 日～20 日とします。
*8 月 10 日頃の出穂日を目標とします。
- 栽植密度：70 株/坪（条間 30cm，株間 15cm）
*「だて正夢」は莖数が少ない品種であるため，やや密植とします。
- 植付本数：4～5 本，植付深：3cm

～春の農作業安全確認運動実施中～（平成31年3月1日から5月31日まで）

「まずはワンチェック，ワンアクションで農作業安全」